

ギリシャ共産党からの連帯メッセージ

貧困と戦争の要因を根絶する闘いが必要だ

ギリシャ共産党中央委員会国際関係部

同志諸君、国際婦人デーに際して3月8日に諸君が東京で組織する集会に連帯のあいさつを送ります。

戦争と貧困に反対し、歴史的に時代遅れになった資本主義体制が引き起こす唾棄すべき側面に反対して結集しようという諸君の呼びかけは、時宜にかなっており、必要なことです。

諸人民は、市場と原材料、輸送路を求める独占の対立のために、自分たちの血で代償を払っています。対立と反目に関して、武器の力を頼りとすることによって、政治的・外交的な手段による妥協を追求することが後回しにされる傾向が強まっています。

欧州連合（EU）の戦争経済への移行は、人民世帯の生活水準と権利に対する攻撃がさらに強まることを予告しています。軍備をまかなうために、医療、年金、教育、社会政策を新たに削減することが公然と口にされています。諸人民は血を流していますが、資本家は、帝国主義戦争の全面化に備えつつ利潤を追求しています。

ギリシャのブルジョワジーは、NATO（北大西洋条約機構）、EU、アメリカの側で積極的な役割を果たし、戦略地政学的な地位の向上をはかっています。政府と他の資本家諸党も、殺人国家イスラエルを積極的に支持し、ウクライナでの帝国主義戦争への関与を深め、わが国全体を広大なアメリカ軍基地に変えています。攻撃のための基地であるとともに、報復の標的となる基地です。

その一方で、労働者と人民の運動は、日々、虐殺されているパレスチナ人民と苦難にあるすべての諸人民への国際連帯をあらゆる方法で表明しています。わが国の労働者と人民は、今日、日本で諸君が実行しているような闘う人民と運動に連帯しています。

都市部や街頭、港湾や軍事基地の外での結集行動、ストライキ、多様なデモによって、労働者と人民は、帝国主義の計画からのわが国の離脱を要求しています。そして、軍事物資を積んだ列車や船舶を止め、わが国にあるすべての外国軍基地の閉鎖を求め、NATOの計画に公然と反対する立場をとる兵士や将校を支援し、大学へのNATOの浸透を強く非難しています。

ギリシャ共産党は、貧困と戦争の要因を根絶する闘いが必要だということを明確にしています。それは、資本主義の野蛮の打倒をめざし、人間による人間の搾取のない社会をめざす闘いです。

同志として

2025年3月3日、アテネ
ギリシャ共産党中央委員会国際関係部

（見出しは編集部による）

【訳＝杉本芳夫】